

基本目標4

安全・安心な地域づくり

基本施策1

支え合い活動の充実

主な取組・事業(1)	支え合い活動の推進	計画書	P64	～	P65
------------	-----------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	民生委員・児童委員活動	住民の生活状態の適切な把握、要援助者への相談・援助、福祉サービスの情報提供、社会福祉事業者との連携・支援、関係行政機関の業務協力等を通して、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人などの地域における見守り活動を行います。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	健康増進課からの依頼で高齢者のための熱中症対策(チラシ)を配布したほか、教育総務課で行っている就学援助制度の周知、栃木警察署からの特殊詐欺や交通安全の情報提供、栃木市社会福祉協議会等との連携を行ない、要援助者への地域における見守り活動を行なった。	

市	事業・取組	高齢者地域見守り支援事業	高齢者の孤独死などの防止のため、ふれあい相談員事業や配食サービス事業、緊急通報装置貸与事業等による安否確認を継続して実施します。また、地域全体で高齢者を見守るネットワークを構築するため、民生委員・児童委員や警察、自治会、民間企業などと連携しながら地域見守り協定の拡大を図ります。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	栃木市地域見守り事業に関する協定の締結により、支援を必要とする高齢者や障がい者を地域の人々が見守り、孤立化・孤独死を防ぐための体制を整備した。 ※令和7年度 協定事業所・団体数:70事業所・団体、協力営業所・店舗数:395営業所・店舗	

市	事業・取組	地域支え合い活動の推進	地域において、見守り等が必要なひとり暮らしの高齢者や支援が必要な人が増加する中で、地域全ての人が支え合う「互助」による支え合い体制の整備に向け、地域の身近なコミュニティである自治会等において支え合い活動を推進していくため、活動に必要な支援を行います。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	地域の人々が、ひとり暮らしの高齢者や障がい者などを日頃から見守る「地域支え合い活動」を推進するため、地域支え合い活動対象者へ名簿登載調査を行い、希望する自治会及び民生委員に名簿を作成・提供した。	

	事業・取組	ふれあい在宅福祉サービスの推進	本事業を活用し、住民相互の支え合い活動を図り、在宅福祉の充実を推進します。
社協	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	住民同士の助け合い活動を高齢者や障がい者等への在宅福祉サービスに結び付けた住民参加型在宅福祉サービス事業(ふれあい在宅福祉サービス事業)を実施した。協力会員46人、利用会員44人の登録があり、年間で1,000回の支援を行なった。 利用希望は多いものの、協力会員の確保が困難であり、すべてのニーズに対応できていない。今後は、広報紙やホームページなどを活用し、協力会員の募集を継続的に実施していく。	

評価②

数値目標			R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	支え合い名簿提供団体数	目標値		15	17	18	80	90	2
		実績値	9	10					
市	自主防災組織の組織数	目標値		114	117	120	123	125	2
		実績値	69	70					
社協	障がい者等移送サービス利用回数	目標値		709	726	743	760	777	2
		実績値	559	473					
市	ごみ出しサポート事業利用世帯数	目標値		65	65	65	65	65	3
		実績値	59	58					

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点がある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】	
【取組における成果】 ●住民同士の助け合い活動を高齢者や障がい者等への在宅福祉サービスに結び付けた住民参加型在宅福祉サービス事業(ふれあい在宅福祉サービス事業)を実施した。協力会員46人、利用会員44人の登録があり、年間で1,000回の支援を行なった。 【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】 ●利用希望は多いものの、協力会員の確保が困難であり、すべてのニーズに対応できていない。今後は、広報紙やホームページなどを活用し、協力会員の募集を継続的に実施していく。	

評価④

推進懇談会評価	
・支え合い名簿の活用自治会数が伸び悩んでいる。独自の見守り体制がある自治会への対応や、個人情報の取り扱いの負担から自治会・民生委員が活用を躊躇する傾向にある。防災や支え合い活動を推進するためには、より広がりを持てるように努めていただきたい。 ・高齢者等のゴミ出し困難者が増加する中、現行のサポート事業の利用条件に合わず、民間業者の不当請求トラブルに巻き込まれる事例が懸念される。地域住民に対し、悪質業者に関する注意喚起等を実施していただきたい。	
基本目標の実現に向けた現状の評価	4 ・ 3 ・ ② ・ 1

基本目標4

安全・安心な地域づくり

基本施策1

支え合い活動の充実

主な取組・事業(2)	防犯、防災活動の推進	計画書	P65	～	P66
------------	------------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	自主防災組織	地域で連携して防災対策を行う自主防災組織の育成を進めることで、災害発生時に「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の力を高めることにより、地域防災力の向上を図ります。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 自主防災組織設立を検討する自治会等を対象に出前講座を計2回実施した。 公募により応募のあった2団体を対象に、地区防災計画策定・自主防災組織設立の支援を行った。 自主防災組織に、防災資器材の購入経費の補助として、次のとおり補助金を交付した。 設立補助交付金200,000円(1団体)(補助額上限200,000円/団体) 活動補助交付額1,065,050円(38団体)(20,000円+世帯数×50円/団体[補助額上限50,000円]) 自治会等推薦により防災士資格取得者に補助金を交付した。 防災士資格取得費補助金 16,000円(1名)(取得経費の3分の2/人[補助額上限42,000円])	
	課題及び今後の取組方針	人口減少や自治会役員の高齢化などにより、地域の防災の担い手の減少が課題となっていることから、地域で無理なく活動できるモデルとして、地区防災計画策定・自主防災組織設立支援を進める。 防災士資格取得補助金などにより、地域防災リーダーを養成する。	

市	事業・取組	防犯活動の推進	地域の防犯環境の整備を図るため、公共の場所に向けて防犯カメラを設置しようとする自治会に対して、設置経費の一部を補助します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 栃木市防犯カメラ設置費補助金交付要綱に基づき申請のあった5自治会に対して、総額1,596,000円の補助金の交付を行った。	
	課題及び今後の取組方針	近年自治会の防犯意識の高まりにより、申請件数が増加傾向にある。 令和8年4月1日から交付要綱中の補助率、補助額等の見直しを行った。	

市	事業・取組	栃木市青少年育成センター	青少年の健全な育成を図るため、関係機関団体と連携し、情報交換を行い協力して、補導活動や青少年相談、環境浄化活動を行います。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 60名の少年補導員を15班に編成し、栃木駅周辺やイベント会場等において、見回り(法令違反については現場注意)や声掛け等の青少年補導活動を実施した。	
	課題及び今後の取組方針	青少年補導員の確保が課題となっている。 関係機関団体の協力をお願いし、活動を継続していく。	

市	事業・取組	空き家解体費補助事業	倒壊のおそれがあるなど再利用が困難な空き家を解体して敷地を活用してもらうため、解体工事費の一部補助を行い、活用できない空き家の除却を促進します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 栃木市空き家解体費補助金交付要綱に基づき、申請のあった85件に対して、総額23,490,000円の補助金の交付を行った。	
	課題及び今後の取組方針	空き家の増加は、防災、衛生、景観等地域住民の生活環境に影響を及ぼすことから、倒壊のおそれがあるなど、老朽化が進行し再利用が困難な空き家については、所有者等に対して解体を促していく。	

社協	事業・取組	災害ボランティア支援委員会の実施	平常時より、行政や栃木青年会議所、NPO法人と連携し、相互の顔の見える関係づくりを目的に、情報交換や研修を共にを行い非常時に向けた体制を整備します。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 災害時に災害ボランティアセンターの設置・運営が迅速かつ効果的に行えるよう、栃木市災害ボランティアの支援委員会を9月に開催し、関係機関・団体と災害ボランティアセンターの設置や人材養成に関して協議・検討を行った。	
	課題及び今後の取組方針	災害発生時に迅速かつ円滑な災害ボランティアセンター運営を実現するため、今後も栃木青年会議所やNPO法人ハイジ等の関係機関と定期的に災害ボランティア支援委員会を開催する。 委員会では、業務内容やセンター運営に関する情報共有、役割分担の確認、実践的な研修等を継続的に実施し、災害対応力の向上を図る。	

社協	事業・取組	災害ボランティアセンター運営研修(隔年)	災害が発生した場合に必要なに応じて行われる「災害ボランティアセンター」の円滑な運営を目指し、災害ボランティア支援委員会をはじめとした関係者やボランティアを含めた運営研修を行い、有事の際に備えます。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 「災害ボランティアセンター運営」の円滑な実施のために、資機材ネットワーク構築事業(ストックヤード事業)を実施した。 また、広域的な災害対応を可能とするため、小山市社会福祉協議会と「災害ボランティア活動用資機材整備の連携に関する協定」(ストックヤード事業)を締結した。	
	課題及び今後の取組方針	災害発生時に迅速かつ円滑な災害ボランティアセンター運営を行うため、栃木青年会議所やNPO法人ハイジ等の関係機関との連携体制を継続的に強化していく必要がある。 隔年で災害ボランティアセンター運営訓練を実施することにより、有事の際にも円滑にセンター運営ができる体制を整えていく。	

評価②

数値目標		R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	支え合い名簿提供団体数	目標値	15	17	18	80	90	2
		実績値	9	10				
市	自主防災組織の組織数	目標値	114	117	120	123	125	2
		実績値	69	70				
社協	障がい者等移送サービス利用回数	目標値	709	726	743	760	777	2
		実績値	559	473				
市	ごみ出しサポート事業利用世帯数	目標値	65	65	65	65	65	3
		実績値	59	58				

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】	
【取組における成果】 ●「災害ボランティアセンター運営」の円滑な実施のために、資機材ネットワーク構築事業(ストックヤード事業)を実施した。また、広域的な災害対応を可能にするため、小山市社会福祉協議会と「災害ボランティア活動用資機材整備の連携に関する協定」(ストックヤード事業)を締結した。 【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】 ●災害発生時に迅速かつ円滑な災害ボランティアセンターの運営を行うため、栃木青年会議所やNPO法人ハイジ等の関係機関との連携体制を継続的に強化していく必要がある。隔年で災害ボランティアセンター運営訓練を実施することにより、有事の際にも円滑にセンターの運営ができる体制を整えていく。	

評価④

推進懇談会評価				
・支え合い名簿の活用自治会数が伸び悩んでいる。独自の見守り体制がある自治会への対応や、個人情報の取り扱いの負担から自治会・民生委員が活用を躊躇する傾向にある。防災や支え合い活動を推進するためには、より広がりを持てるように努めていただきたい。 ・高齢者等のゴミ出し困難者が増加する中、現行のサポート事業の利用条件に合わず、民間業者の不当請求トラブルに巻き込まれる事例が懸念される。地域住民に対し、悪質業者に関する注意喚起等を実施していただきたい。				
基本目標の実現に向けた現状の評価	4	・	3	・ ② ・ 1

基本目標4

安全・安心な地域づくり

基本施策2

移動手段、生活環境等の整備

主な取組・事業(1)	外出支援の充実	計画書	P67	～	P67
------------	---------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	外出支援事業	学生や高齢者等の自家用車等を運転できない人の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を図るため、市民、交通事業者、市が一体となり、地域の実情に即した持続可能な地域交通を実現するため、コミュニティバス及びデマンドタクシーを運行します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる コミュニティバスにおいては、通勤・通学者の利便性及び運行の安全と定時運行を確保するため、運行ルートの見直し等を行った。 蔵タクについては、ふれあい通信に記事を掲載し制度の周知を行った。	
	課題及び今後の取組方針	コミュニティバス及びデマンドタクシーの収支率が低調であること、また、運行エリアの重複など利用者にとって分かりにくく効率的でないことが課題である。 利便性が高く、効率的な運行体制となるよう改善に取り組む。	

社協	事業・取組	障がい者等 移送サービス	車椅子を利用されている人を対象に、車いす移送車を活用し市外の病院等への送迎を行い、介護者の負担軽減を図るとともに利用者の利便性を図ります。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 公共交通機関の利用が困難な方を対象に、車いすやストレッチャーの使用等による市外の医療機関への通院、入院等を行っている市民に対し、移送サービスを473回実施した。	
	課題及び今後の取組方針	利用者が減少傾向にあるため、さらなる事業の周知・広報活動を実施していく。 また、ストレッチャーの乗降が可能な福祉車両は導入費用が高額であるため、今後の車両更新に向けた財源確保などについて検討していく。	

社協	事業・取組	外出に関わる 支え合い活動の推進	公共交通機関の利用が困難な方々に対し、地域住民等の相互の支え合い活動の一環として、出張販売や、ボランティアを活用した買い物等の支援を行い、地域の実情に合わせた活動を展開します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうの方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 住民同士の助け合い活動を高齢者や障がい者等への在宅福祉サービスに結び付けた住民参加型在宅福祉サービス事業(ふれあい在宅福祉サービス事業)を実施し、外出の付き添い54回・買い物支援190回実施した。	
	課題及び今後の取組方針	利用希望は多いものの、協力会員の確保が困難であり、すべてのニーズに対応しきれていない。 今後は、広報紙やホームページなどを活用し、協力会員の募集を継続的に実施していく。	

社協	事業・取組	車いす車両貸出事業	車いすを利用する高齢者や障がい児者を対象に、外出の手段の確保や社会参加を進め、介護者の負担軽減を図るために車いすのまま乗降できる車両を無料(燃料代負担)で貸し出します。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる	
	課題及び今後の取組方針	移動に関する介護者の経済的負担は大きく、高齢者や障がい児(者)の移動手段を確保する上で重要な事業である。 しかし、今後の安定的な事業継続に向けて、車両の維持管理費や車両更新にかかる費用の財源確保について検討していく必要がある。	

評価②

数値目標			R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	支え合い名簿提供団体数	目標値		15	17	18	80	90	2
		実績値	9	10					
市	自主防災組織の組織数	目標値		114	117	120	123	125	2
		実績値	69	70					
社協	障がい者等移送サービス利用回数	目標値		709	726	743	760	777	2
		実績値	559	473					
市	ごみ出しサポート事業利用世帯数	目標値		65	65	65	65	65	3
		実績値	59	58					

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】
【取組における成果】 ●公共交通機関の利用が困難な方を対象に、車いすやストレッチャーの使用等による市外の医療機関への通院・入院等を行っている市民に対し、移送サービスを473回実施した。 ●車椅子を利用する高齢者や身体障がい児者の外出時(通院・通所・外出等)の負担軽減を図ることを目的に、車椅子のまま乗降できる車両の貸し出し(燃料費のみ実費負担)事業を実施し、143人に延べ370回行った。 【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】 ●移送サービス及び車椅子車両貸出事業について、ともに車両の維持や更新に係る財源確保が課題になっている。

評価④

推進懇談会評価
・支え合い名簿の活用自治会数が伸び悩んでいる。独自の見守り体制がある自治会への対応や、個人情報の取り扱いの負担から自治会・民生委員が活用を躊躇する傾向にある。防災や支え合い活動を推進するためには、より広がりを持てるように努めていきたい。 ・高齢者等のゴミ出し困難者が増加する中、現行のサポート事業の利用条件に合わず、民間業者の不当請求トラブルに巻き込まれる事例が懸念される。地域住民に対し、悪質業者に関する注意喚起等を実施していただきたい。
基本目標の実現に向けた現状の評価

4 ・ 3 ・ ② ・ 1

基本目標4

安全・安心な地域づくり

基本施策2

移動手段、生活環境等の整備

主な取組・事業(2)	生活環境整備の充実	計画書	P68	～	P68
------------	-----------	-----	-----	---	-----

評価①

市	事業・取組	ごみ出しサポート事業	家庭から排出するごみを、ごみステーションまで搬出することが困難な高齢者、障がいのある人等のみで構成される世帯に対し、安否の確認を行いながら家庭ごみを戸別に収集します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる ごみ出しの協力が得られない市民税非課税世帯で、65歳以上で要介護2以上の認定を受けている、身体又は精神障害1級又は2級に該当することなどを要件とし、対象者の住宅へ市職員(会計年度任用職員)が公用車で戸別に収集をしている。	
	課題及び今後の取組方針	本市の高齢者のごみ出しの現状把握を行い、ごみ出しサポートの対象要件の見直しの必要性を検討する。	

市	事業・取組	幹線道路におけるバリアフリー化の推進	誰もが安全に安心して利用できる、人にやさしい道路の整備を実施し、特に駅周辺や高齢者や障がいのある人等が比較的多く利用する施設の周辺において、歩道の段差解消や視覚障がい者用ブロックの設置等、面的、一体的なバリアフリー化を推進します。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 道路整備において、段差がない歩道整備を実施した。	
	課題及び今後の取組方針	栃木市バリアフリー基本構想に基づく特定事業計画に定めた事業は概ね目標どおり完了している。今後、新たなバリアフリー基本構想を策定するのか検討を進め、方針を決定させる。	

評価②

数値目標			R06	R07	R08	R09	R10	R11	自己評価
市	支え合い名簿提供団体数	目標値		15	17	18	80	90	2
		実績値	9	10					
市	自主防災組織の組織数	目標値		114	117	120	123	125	2
		実績値	69	70					
社協	障がい者等移送サービス利用回数	目標値		709	726	743	760	777	2
		実績値	559	473					
市	ごみ出しサポート事業利用世帯数	目標値		65	65	65	65	65	3
		実績値	59	58					

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

【取組における成果】

●ごみ出しの協力が得られない市民税非課税世帯で、65歳以上で要介護2以上の認定を受けている、身体又は精神障害1級又は2級に該当することなどを要件とし、対象者の住宅へ市職員(会計年度任用職員)が公用車で戸別に収集をしている。

【施策の方向性の実現に向けた課題・方針】

●本市の高齢者のごみ出しの現状把握を行い、ごみ出しサポートの対象要件の見直しの必要性を検討する。

評価④

推進懇談会評価

・支え合い名簿の活用自治会数が伸び悩んでいる。独自の見守り体制がある自治会への対応や、個人情報の取り扱いの負担から自治会・民生委員が活用を躊躇する傾向にある。防災や支え合い活動を推進するためには、より広がりを持てるように努めていただきたい。

・高齢者等のゴミ出し困難者が増加する中、現行のサポート事業の利用条件に合わず、民間業者の不当請求トラブルに巻き込まれる事例が懸念される。地域住民に対し、悪質業者に関する注意喚起等を実施していただきたい。

基本目標の実現に向けた現状の評価

4

・

3

・

②

・

1